

強勢台木の利用による中晩生カンキツ「はるみ」の初期生育の改善

現在、主に淡路地域で導入が進んでいる「はるみ」は従来のカラタチ台の苗木では幼木期の生育が緩慢で、結実開始後は樹勢が弱まる傾向がある。そこで強勢台木「シングルシトルメロ」を台木として利用し、苗木の初期生育について調査した結果、従来のカラタチ台の苗木に比べ、樹体の生長が良くなり、早期樹冠拡大を図れることが明らかとなった。

内容

1年間育苗した2年生「はるみ」を2011年3月に当センター果樹園に定植し、幹周、樹高、樹幅については4月と12月、新梢の発生状況については10月に調査した。

幹周、樹高はカラタチ台に比べシングルシトルメロ台（以下、「SC台」という）の方が大きく、増加量も幹周は4倍、樹高は2倍程度大きかった（表）。樹幅はカラタチ台に比べSC台の方が大きく、樹冠容積もカラタチ台に比べSC台の方が2倍以上大きかった（表）。新梢発生数は、春梢、夏梢はSC台の方が多く、秋梢はカラタチ台の方が多かったが、総新梢発生数はSC台の方が多かった（図1）。新梢伸長量についても、春梢及び夏梢はSC台の方

が大きく、秋梢はカラタチ台の方が大きかったが、総新梢伸長量はSC台の方が2倍程度大きかった（図2）。

このことから、「はるみ」において「シングルシトルメロ」を台木として利用した場合、カラタチ台に比べ生育が良くなるとともに、充実した枝が増加することが分かった。

今後の方針

樹勢が強まることによる着花、果実品質への影響については「はるみ」ではまだ確認できていないので、今後はこれらの特性について調査を行っていく。

宗田 健二（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

表 台木の違いが「はるみ」2年生苗の樹体の生長に及ぼす影響（2011年）

| 台木 | 幹周 (cm) | | 樹高 (cm) | | 樹幅平均 (cm) | | 樹冠容積 (m ³) | |
|------|---------|-----|---------|-------|-----------|-------|------------------------|------|
| | 4月 | 12月 | 4月 | 12月 | 4月 | 12月 | 4月 | 12月 |
| SC | 5.3 | 7.7 | 99.6 | 133.0 | 57.0 | 105.0 | 0.23 | 1.03 |
| カラタチ | 4.6 | 5.2 | 97.2 | 115.0 | 47.6 | 72.0 | 0.15 | 0.42 |

注) SC：シングルシトルメロ

平均樹幅：樹間方向と列間方向の平均値

樹冠容積：平均樹幅×2×樹高×0.7

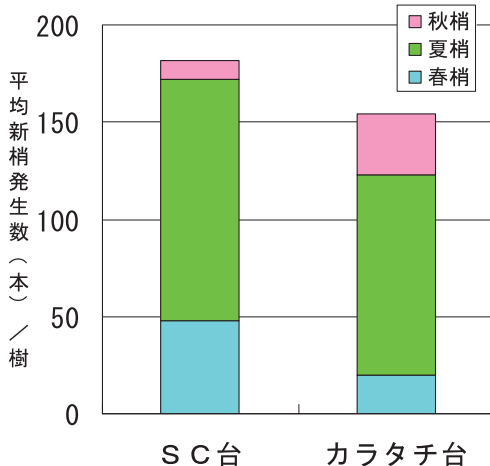


図1 台木の違いと新梢発生数

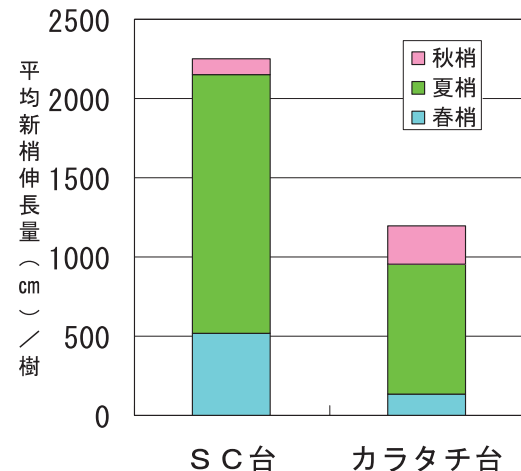


図2 台木の違いと新梢伸長量